

芋川 ジロト沢左股

大野

【日時】2006年10月1日

【メンバー】大野 木下 棚橋 佐貫

知る人ぞ知る。芋川という名前といい、不思議な地形といい、この言葉がこれほど似合う沢を知らない。

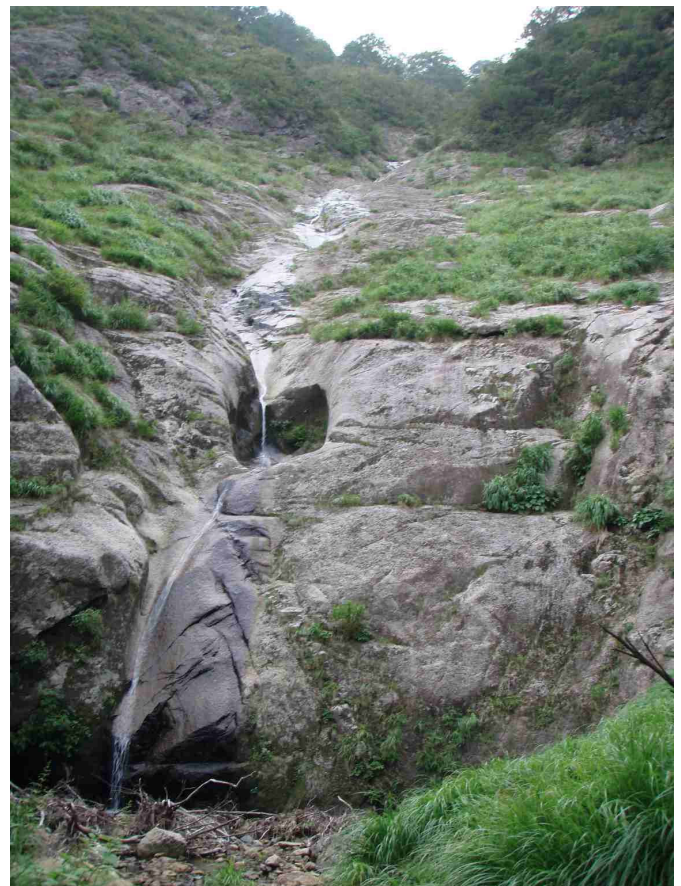
随分前から一人で騒いでいたが、賛同者がおらず、一人大兜に登ったのが3年前の11月。この時は核心の大滝を高巻いてしまい、終わりかけの紅葉に映えるスラブの景観の中で再挑戦を誓った。宣伝活動に伴い会での知名度も上がってきたところで再度計画したのが1年後。ところが、横浜の自宅から車を東に走らせているところに入って来たのは、中越地震の被害を告げるラジオのニュース。結婚直前の石井さんの新居に上がり込み、TVを横目に酒を飲みつつ夜は更けていった。その後、佐貫さんの入信により、ジロトの計画は恒例となる。しかし、スラブ遊びと併せて計画に入れても、天候などの理由により左股は遠い。この6月には、我がざっくり腰まで行く手を阻む。

今回は、新たに「知る人」・木下さんが加わり、何度目かの挑戦を目指す。天気は良くはないものの、何とか持ちそうな感じ。

10月1日（日）

野中から芋川沿いの林道に車を走らせる。やたらと工事関係の看板が立っており、「釣人用」と書かれた駐車場の看板までである。林道終点にはクレーン車数台が置かれ、林道延伸工事が行われている。さらに、芋川沿いの踏跡に沿って伐採が入っている。下山時に話を聞くと、奥に堰堤を作るため、吊橋の先まで林道を延ばすとのこと。この芋沢で土石流が起こるとも思えないのだが・・・。

2年前の雪で壊れていた吊橋は、修理されていた。野中不動へ向かう道と分かれて左岸沿いに進む踏跡も歩きやすくなっている。5回の徒渉を交えて踏跡を辿り、重松越路に登り始める手前で沢に降り立つ。



6月と比べて水量は少なく、岩は滑りやすい。

【左股大滝】

1時間程で左岸にスラブが広がる見慣れた景色。ゴルジュで合流するBルンゼをみて、小滝を二つほど越すと河原になり、正面に布晒の大滝がドーンと迫る。小函に右岸から水量比1:5で合流するしょぼい枝沢が左股である。小函の通過で、佐貫さんは果敢にも中央突破を図り、「ジロト沢で腹まで濡れてしまった」と文句しきり。

左股に入るとすぐに大滝が目の前に現れ、その下は広場となっている。

中央は取り付けないので、右側の土が堆積して一段高くなった所に上がって登攀開始。ロープを付けて、まず大野がトップ。ここから臨む大滝の傾斜は緩いが、最初の3m程が滑りそうで怖い。アクアステルスのグリップに頼ってこれを登り、草付の灌木まで直上し、ここか



【3P目をビレーする木下さん】

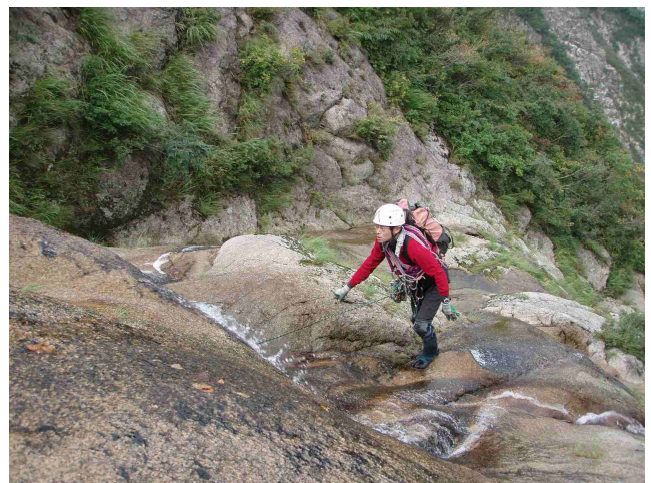
ら水流に向かってトラバース。傾斜は緩いのだが頼るものがないのが嫌らしい。45m伸ばして灌木でビレイを取る。木下さんが続くが、フェルト靴で苦勞していた。2P目は靴を履き替えた木下さんがスラブを直上45m。ペタペタと登っていけるとはいえ、滑れば大げがなのでロープがあると安心。振り返るとジロト沢左岸のスラブが広がり、気持ちがよい。3P目は棚橋さんがスラブを更に進む。20m程で水流沿いは一旦傾斜がゆるみ、見方によっては別の滝となる。左岸のスラブにロープをそのまま伸ばし



【略奪点にて】

て40m。最後は、佐貫さんが10mの滝を右から20mザイルを伸ばして落口に至る。

沢が右に曲がると雰囲気は一変し、小さなゴルジュの中に小滝が連なる。しっとりとした苔が生えており、水量が安定している感じである。上の大滝とつながっている5m滝を右から巻くと、ひょっこりと尾根の上に出る。略奪点だ。滝を尾根が割り、インゼンルンゼのスラブ滝が一気に高度を落としている。布晒の大滝を始めとするジロトの伽藍が一望の下にある見事な光景だ。



【80m 大滝を登る。】

ここから、木下さんが水流左に40mロープを伸ばす。難しくはないが高度感がある。続



いて、大野が水流を横切り、滑りやすいナメに50m伸ばしてこの80m大滝を終了。続く20m滝は、左のリッジからヤブに入って高巻く。

この後、スケールは小さくなるものの、ナメとゴルジュが続く。滑りやすいが楽しく越していける所だ。傾斜が緩くなるに従い、右岸側の尾根が近づき、ジロト沢遊園地も終わりを告げる。

標高差10mの登りで三石左稜の尾根に達し、10分程のヤブ漕ぎで展望台と呼ばれる露岩の小ピークに至る。左股のゴルジュ帯や二股からせり上がってくる様子が望める。ジロト・スラブの伽藍、ネコブの展望もある絶景の地だ。一部に踏跡もあるものの、ヤブ尾根を進むと、次第に伽藍の上には大兜・小兜、それに小沢源頭のスラブが全貌を現すようになる。今後も、私の重箱の隅路線の対象として、末永くお付き合いすることになるであろう山域である。

さらにヤブ漕を少しで、ひょっこりと下津川の雨量計測小屋に出た。立派な小屋で、ここからは刈払いの入った立派な道となる。稜線からの急な道を下り、執念のジロト沢遡行に皆で握手。

【地形図】

六日町、兔岳

【行程】

林道 (6:00)
左股出合 (8:00)
略奪点 (10:20)
雨量計 (13:30)
林道 (15:00)

【グレード】

2級
(フェルト靴なら3級)

